

調査研究及び情報提供事業等に必要な経費

情報センター事業費

1. 催し等事業費

- (1) 国内連携促進

2. 文化資料事業費

- (1) 定期刊行物
- (2) 年次報告
- (3) ウェブサイト・メールマガジン
- (4) JFサポーターズクラブ

3. 調査研究費

- (1) JFIC事業
- (2) 国際交流顕彰事業（基金賞）
- (3) 国際交流顕彰事業（地球市民賞）

4. その他

- (1) 後援名義の付与

情報センター事業費

1. 催し等事業費 / (1) 国内連携促進

国内の国際交流活動の振興と国際交流団体のネットワーク化を目的としたセミナー等を開催する。

合計額 878,048 円

	事業名	共催・協力機関	期間	事業内容
1	フェスティバル参加	グローバルフェスタJAPAN2009実行委員会 ワン・ワールド・フェスティバル実行委員会 ワールド・コラボ・フェスタ実行委員会	2009.04.01 ~ 2010.03.31	全国各地で開催される国際交流フェスティバルにブース出展、セミナーを実施。東京（グローバルフェスタ JAPAN 2009）、大阪（ワン・ワールド・フェスティバル）、名古屋（ワールド・コラボ・フェスタ2009）に参加
2	ウェブサイト「AIR_J」		2009.04.01 ~ 2010.03.31	全国各地で実施されるアーティスト・イン・レジデンス事業を支援し、国内外の関係者や訪日を希望する海外のアーティスト等に情報を提供するため、日本国内のアーティスト・イン・レジデンス情報をウェブサイト（和文・英文）に掲載 URL: http://air-j.info/

情報センター事業費

2. 文化資料事業費 / (1) 定期刊行物

国際文化交流に関する専門誌『をちこち（遠近）』（和文）を、隔月にて発行する。

合計額 27,263,688 円

	事業名	部数	事業内容
1	『をちこち（遠近）』 29号	7,000	特集「世界と出会う歌舞伎」2009年6月1日発行
2	『をちこち（遠近）』 30号	7,000	特集「メコンの暮らしから考える『人間と川』」2009年8月1日発行
3	『をちこち（遠近）』 31号	7,000	特集「国境を越える人々と国家の関係」2009年10月1日発行
4	『をちこち（遠近）』 32号	7,000	特集「海外で活躍している日本人が、ここにもいる」2009年12月1日発行

2. 文化資料事業費 / (2) 年次報告

年度ごとに総括を報告する年報を発行する。

合計額 9,854,222 円

	事業名	事業内容
1	和文年報	国際交流基金の平成20年度（2008年度）事業に関する和文年報の作成（2,000部）、送付
2	英文年報	国際交流基金の平成20年度（2008年度）事業に関する英文年報の作成（2,000部）、送付
3	事業実績	国際交流基金平成19年度（2007年度）事業に関する事業実績（PDFファイル版）の作成

2. 文化資料事業費 / (3) ウェブサイト・メールマガジン

ウェブサイト、Eメールマガジンを通じて、プログラムガイドライン等も含めた国際交流基金の各種事業や、国際文化交流に資する情報提供を行う。

合計額 15,320,496 円

	事業名	事業内容
1	国際交流基金ウェブサイトの運営	国際交流基金の事業に関する情報、公募事業の案内、申請書類、その他お知らせ等をインターネット上で提供 URL: http://www.jpif.go.jp/
2	メールマガジン	国際交流基金の事業に関する情報をメールマガジン（和文:週1回、英文:隔週1回）で配信
3	ブログ「地球を、開けよう。」	国際交流基金の事業に関する告知や報告をブログで公開 URL: http://d.hatena.ne.jp/japanfoundation/
4	動画配信	ウェブサイト上で国際交流基金の実施した催し物等の映像ファイルを公開

情報センター事業費

2. 文化資料事業費 / (4) JFサポーターズクラブ

国際交流基金事業への支援者を対象として、国際文化交流事業に参加してもらうことを目的としたJFサポーターズクラブを運営する。

合計額 2,913,383 円

	事業名	事業内容
1	JFサポーターズクラブの運営及びイベントの実施	JFサポーターズクラブ会員への広報をする場として、また新規会員獲得の場として、国際交流基金事業に関連するトークイベント、講演会、コンサート、国際交流基金附属日本語国際センター授業見学会などを実施。本制度は、平成22年1月をもって新規会員募集を停止

3. 調査研究費 / (1) JFIC事業

国際文化交流、日本関係情報、国際交流基金の活動についての情報を収集し、広く一般に提供するための、ライブラリーとイベントスペースを併設した情報センター（JFIC：ジェイフィック）を運営する。

合計額 42,300,297 円

	事業名	事業内容
1	JFICライブラリーの運営	<p>国際交流基金の実施事業に関する出版物、国際文化交流・文化政策に関する関係資料、外国語で書かれた日本紹介資料を収集。研究者や国際文化交流に関心のある幅広い利用者に情報を提供している。さらに海外の基金図書館とのネットワーク調整、運営支援も行う。所蔵する貴重資料の特別展示「ちりめん本を知っていますか？」を開催</p> <p>①所蔵資料合計（視聴覚資料を含む）：37,898点 （内訳：図書 35,510冊、視聴覚資料 592点、マイクロ資料 1,796点） 雑誌 426冊、オンラインジャーナル 21点、新聞 8紙</p> <p>②利用者数（年間）：18,652名 ③貸出点数（年間）：3,002点 ④レファレンス件数（年間）：908件</p>

情報センター事業費

3. 調査研究費 / (2) 国際交流顕彰事業 (基金賞)

学問、芸術その他の文化活動を通じて、国際文化交流に特に顕著な貢献があった個人、団体等に対しその功績を顕彰する。

合計額 26,467,570 円

	種別	受賞者	現職	対象国	授賞理由
1	国際交流基金賞 (文化芸術交流部門)	ボリス・アクーニン (本名: グリゴリー・ チハルチシヴィリ)	作家	ロシア	ロシアのベストセラー作家であり、日本文学研究者・翻訳者であり、日本文学をロシアに紹介するとともに、推理小説シリーズをはじめとする多彩な執筆活動において日本文化の紹介に貢献し、またロシアを代表する文化人の一人として日露文化交流に貢献した
2	国際交流基金賞 (日本語部門)	全米日本語教師会連合会 (Alliance of Association of Teachers of Japanese (AATJ))	—	米国	全米日本語教師会連合 (Alliance of Association of Teachers of Japanese [AATJ] 代表: スーザン・シュミット事務局長) は、全米規模の日本語教育団体の連合体。各団体の活動の調整を行うとともに、研修事業や情報交流事業を実施することによって、初・中等教育段階から高等教育段階におよぶ米国における日本語教育の発展に大きく貢献した
3	国際交流基金賞 (日本研究・知的交流部門)	アーサー・ストックウイ ン	オックスフォード大学 日産日本問題研究所 前所長	英国	英国を代表する日本研究者として、現代日本政治の研究において優れた業績を挙げ、英国における日本研究を促進するとともに、オックスフォード大学日産日本問題研究所長として対日理解の促進と日英の学術交流に大きく貢献した

3. 調査研究費 / (3) 国際交流顕彰事業 (地球市民賞)

国内各地で行われている地域に根ざした国際交流活動を振興するために、この分野で活躍している国内団体、個人を顕彰する。

合計額 12,032,960 円

	受賞者	都市	授賞理由
1	特定非営利活動法人自然生クラブ	茨城県つくば市	1990年から、茨城県の筑波山麓を拠点として知的ハンディのある人々を含む「組織体」を作り、環境保全型農業を営みながら、その生活から育まれた感性を表現する活動を展開。海外から障害のあるアーティストを招くなどの国際文化交流を行っている
2	特定非営利活動法人浜松NPOネットワークセンター	静岡県浜松市	人口の約4%弱、3万人が外国人という、全国有数の外国人集住都市である静岡県浜松市で、1998年より多文化共生事業に取り組む。教育、医療、アートを3つの柱に、人々をつなぐ「ネットワーク」を目指している
3	特定非営利活動法人グリーンバレー	徳島県神山町	2004年より、徳島県神山町で、アートを柱に過疎化地域が生き残るためのグローバルな地域活性化を図っている。海外アーティストを招く神山アーティスト・イン・レジデンス (KAIR) 事業、アートの森整備事業など多彩な活動を展開

情報センター事業費

4. その他 / (1) 後援名義の付与

一定の要件を満たす国際交流事業に対して、国際交流基金の後援名義の使用を承認し、当該事業の実施を支援する。

合計額 0 円

	事業名	実施国	申請者	期間	事業内容
1	第4回全中国選抜 中国日本語スピーチコンテスト	中国 日本	日本経済新聞社	2009.04.01 ~ 2009.07.13	中国全土の大学生を対象に北京、上海、広州など8都市で予選会を行い、予選通過者16名を日本に招へいして都内で本選を実施するとともに、彼らに日本の政界、経済界の人々や大学生たちと交流する機会を設ける。中国の学生達の日本語学習意欲向上と、対日理解を深めてもらうことを目的とした事業。日本経済新聞社、中国教育国際交流協会、日本華人教授会議の3者による共催事業
2	第10回大阪国際音楽コンクール	日本	大阪国際音楽振興会	2009.04.01 ~ 2009.10.12	世界へ羽ばたく若い音楽家を見出し、送り出す目的で、大阪で国際規模のコンクールを開催。高度な芸術・文化の発信地として関西をアピールし、21世紀の世界平和と関西一円の繁栄の礎を築く
3	ラ・フォル・ジュルネ・オ・ジャポン 「熱狂の日」音楽祭2009 ~バッハとヨーロッパ~	日本	株式会社東京国際フォーラム	2009.04.28 ~ 2009.05.05	クラシック音楽の裾野を広げ、その素晴らしさを老若男女あらゆる人々で分かち合う。特に子供たちに、クラシック音楽の素晴らしさと感動を伝え、21世紀を担う彼らの健全な育成を図る。世界各地で活躍する音楽家たちの交流を通じ、国、地域を越えて諸外国と日本の文化交流を促進する。地域の魅力ある街づくりに貢献し、その魅力を世界に向けて発信する等の目的で、バッハの音楽を基にしたクラシック音楽祭を開催
4	留学生論文コンクール	日本	財団法人大学セミナーハウス	2009.05.01 ~ 2009.11.15	「お互いを知ることから多文化共生の道を共に探してみよう」をテーマに、日本の大学に在学中の留学生から、自分の体験にもとづく提言をまとめた論文を募集。入選者に賞状等を授与
5	一四川大地震発生1周年一写真展 四川、加油！（がんばれ！四川）	日本	日本中国友好協会	2009.05.12 ~ 2009.05.14	四川大地震震災1周年を迎える2009年5月12日から3日間、被災地の現状を伝え、必要な支援をともに考える写真展を開催。この写真展を通じて、若い世代を含む日本国民の四川大地震被災者への関心を高め、復興に向け支援の輪を広げる
6	第8回J-AIRネットワーク会議	日本	J-AIRネットワークフォーラム 実行委員会	2009.05.14	①国内のアーティスト・イン・レジデンス（AIR）の担当者、在日大使館文化担当官及びAIR関連事業の関係者が一堂に会し、時代背景からAIRのテーマを抽出し、それを元に意見交換と情報収集を行う。②AIR活動の普及と振興。国内のアーティストや美術大学生、美術教育者に向けて、国内外のAIR活動の場を紹介し、国際的な創作の機会に関する情報を提供する。以上の2つのフォーラムを開催
7	あーすフェスタかながわ 2009	日本	あーすフェスタかながわ2009 実行委員会	2009.05.16 ~ 2009.05.17	地域社会と神奈川県在住外国人が交流を深め、相互の協力関係を作り上げていく機会として、在住外国人とNGO等が企画・運営して、公演、ワークショップ等、参加者が「多文化共生」や「国際理解」について共に考え、語らい、楽しむ催しを開催

情報センター事業費

	事業名	実施国	申請者	期間	事業内容
8	第30回世界アマチュア囲碁選手権戦静岡大会	日本	財団法人日本棋院	2009.05.27 ~ 2009.05.30	アマチュア囲碁棋士の技術向上と各国囲碁組織の強化発展を目的として開催。海外66カ国・地域から代表選手66名が参加し、スイス・システムによる個人対局を行い世界アマチュア・チャンピオンを決定
9	New York Asian Symphony Orchestra (東京公演)	日本	株式会社グローバーズ	2009.05.28 ~ 2009.06.14	ニューヨークで、若手アジア人演奏家の国際的認知度・評価の向上、活動の支援を目的とする米国の非営利団体オーケストラの公演。今回のツアーは一流アーティストと音楽のジャンルを超えた交流を実現し、若者たちの交流も実施
10	第2回メコン川音楽祭2009	日本	特定非営利活動法人 アジア子ども教育基金協会	2009.05.29	タイ国王81歳記念植林及びミャンマー、ラオス音楽学校建替え基金のため、タイ、ミャンマー、ラオスから来日する若手歌手がチャリティ・コンサートを開催
11	ミュージック・マスターズ・コース・ジャパン (MMCJ) 2009	日本	ミュージック・マスターズ・コース・ジャパン実行委員会	2009.06.10 ~ 2009.06.23	指揮者、大友直人、アラン・タケシ・ギルバートを芸術監督として、世界各国のオーケストラ首席クラスの演奏家を講師に招き、プロの音楽家を目指す若い演奏家の育成を目的にクラシック音楽の国際的マスター・コースを開催。室内楽集中セミナー、公開セミナー及びリハーサル、国際交流フォーラムを開催。アートマネージメントコース、講師陣による演奏会、成果発表演奏会等も実施
12	なら 春子トリオ凱旋コンサート	日本	ドラムツリーミュージック	2009.06.13	国際交流基金の在米日本文化専門家中南米派遣事業の一環で、3年間に亘って行われた中米カリブ7カ国（プエルトリコ、トリニダード・トバゴ、パナマ、ホンジュラス、エルサルバドル、コスタリカ、ドミニカ共和国）文化交流ツアーの成果を日本で報告発表する。ツアーと同メンバー、なら春子（ピアノ、アフリカンドラム）、ジノ・シトソン（ボーカル、アフリカンドラム）、増尾好秋（ギター、パーカッション）のトリオによる演奏とトーク
13	第7回日本・インドネシア美術文化交流展(ジャカルタ展)	インドネシア	インドネシア美術研究会	2009.06.18 ~ 2009.06.25	相互の研鑽と交流を通じて、インドネシアと日本の相互理解を深めることを目的に、インドネシア人作家と日本人作家による美術作品展を開催
14	渋沢 栄一賞	日本	埼玉県	2009.07.01 ~ 2010.02.28	多くの企業の設立や育成に携わる一方で、福祉や教育などの社会事業にも尽力した渋沢栄一翁の業績をたたえ、その精神を今に受け継ぐ健全な企業活動を営むとともに、国際交流・協力分野を含む社会貢献活動が顕著な企業または企業経営者に渋沢栄一賞を授賞
15	第15回カナガワビエンナーレ国際児童画展	日本	財団法人かながわ国際交流財団	2009.07.01 ~ 2010.03.31	絵画を通じて児童の夢と想像力を育み、多文化共生社会の実現に向けて、お互いの生活や文化を理解し合う目的で、県内及び世界各国から児童画を募集して展覧会を開催

情報センター事業費

	事業名	実施国	申請者	期間	事業内容
16	英国劇団プロペラ公演『ヴェニス商人』『夏の夜の夢』	日本	東京芸術劇場（財団法人東京都歴史文化財団）	2009.07.02 ～ 2009.07.12	野田秀樹の芸術監督就任記念にふさわしい国際プログラムにすべく、イギリスから斬新な演出と質の高い演技で世界各国で注目を集めており、未だ来日したことのない英国の劇団「プロペラ」を招へいし、話題性と発信性で、国際文化交流事業展開の布石とする。公演終了後には、エドワード・ホール（劇団プロペラ演出家）と野田秀樹による、ポスト・パフォーマンス・トークを実施
17	2009金沢工業大学／米国図書館・情報振興財団図書館・情報科学に関する国際ラウンドテーブル会議	日本	学校法人金沢工業大学	2009.07.09 ～ 2009.07.10	「新しい情報技術が教育・研究をどのように変えたか」をテーマに、eラーニングを中心とした米国の事例をもとに、今後における課題と方向性を探る国際会議を開催
18	第31回びあフィルムフェスティバル	日本	びあ株式会社	2009.07.17 ～ 2009.07.31	「映画の新しい才能の発見と育成」をテーマに、映画監督を目指す全国のアマチュア映画作家を対象に1997年から実施している映画祭
19	第30回霧島国際音楽祭	日本	財団法人ジェスク音楽文化振興会	2009.07.24 ～ 2009.08.09	国内並びにアジアの音楽文化の発展に資するため、世界一流のアーティストを講師に招き、日本及びアジアの若手音楽家を対象としたマスタークラスと演奏会を開催
20	'09 平和をつくる子ども交流プロジェクト	イスラエル、パレスチナ	特定非営利活動法人聖地のこどもを支える会	2009.07.28 ～ 2009.08.09	日常生活ではほぼ不可能になっているイスラエル（9名）とパレスチナ（9名）の青少年に、出会い・対話と交流の機会を提供。さらに日本（8名）の青少年も参加してイスラエル、パレスチナに派遣することで、3カ国の若者が体験・対話・交流を通して紛争問題と和解の必要性を学び、民族・宗教・文化の違いや敵意を超えて平和をつくり育てる決意をはぐくむことを目指した
21	第25回東川町国際写真フェスティバル	日本	東川町写真の町実行委員会	2009.07.28 ～ 2009.09.06	本展は大雪山国立公園の大自然に恵まれた地の利を活かし、東川町が世界に開かれた写真立国を目指す核になるものである。国内外の写真作家が参加する国際的な写真賞授賞式を中心に、受賞作家フォーラムや著名写真家との講習会を実施。これらの行事を通し、アマチュア写真家や来町者及び地域の人々の国際的な文化交流とコミュニケーションを進めることを目的として開催
22	第8回夏期教員ワークショップ	日本	武蔵野市国際交流協会	2009.07.29 ～ 2009.07.31	「『まち』・世界をつなぐ国際理解教育」をテーマに、地域に暮らす外国人やNGOとの協働での授業づくりを推進することを目的に、国際理解教育の理念・理論及び参加型学習の手法や実践事例を紹介しながら、教員が授業実践のイメージを獲得できる場を提供

情報センター事業費

	事業名	実施国	申請者	期間	事業内容
23	ITI伝統芸能ワークショップ2009 vol.21 《狂言》	日本	社団法人国際演劇協会 (ITI)	2009.08.10 ~ 2009.08.19	日本固有の舞台芸術を参加者に体験させることにより、日本芸術をより身近なものとしてとらえ、日本文化への理解を深めるために開催する俳優のための実技研修。参加者の国籍を問わず（参加者の約半数は外国人）広い視野に立って次世代の育成と交流を目的とする。また、狂言の基本的な発声と身体の使い方を体得するための練習及び所作・構成がシンプルかつ洗練されている演目を選択し、これらを中心に稽古、装束付けも体験、最終日に公開発表を実施
24	第22回JAPAN TENT—世界留学生交流・いしかわ2009—	日本	第22回JAPAN TENT開催委員会	2009.08.20 ~ 2009.08.26	国際社会の未来を担う世界各国・地域からの留学生を石川県に招き、国際交流を図ると共に、若者達の夢と希望、日本の社会・文化・生活などについて意見を交換する
25	第46回全国国際教育研究大会 青森大会	日本	全国国際教育研究協議会	2009.08.21 ~ 2009.08.22	「共に生き、共にはたらく—開発教育の視点から—」を大会のテーマに、基調講演、分科会「“グローバルシチズン”について考える」、「ジャンボ国際交流部の活動」、ワークショップ等全7本のほか、地球のステージシンポジウム「国際理解教育の理念と高校現場への還元」、第29回高校生英語弁論大会、第9回留学生日本語弁論大会を実施
26	第31回ぎふアジア映画祭	日本	ぎふアジア映画祭実行委員会	2009.08.23 ~ 2009.12.06	アジア各国の映画を上映することにより、その国の文化風習などに触れる機会を提供し、アジアとの文化交流を深める場とした。また上映作品の字幕翻訳家とのゲストトークも実施
27	UNIT ASIA (ユニット・アジア) Live at Blues Alley Japan	日本	有限会社ブラネットアーツ	2009.08.27 ~ 2009.08.30	国際交流基金が2008年10~11月に実施した事業「UNIT ASIA 東南アジアツアー」を機に特別編成されたアジア各国の演奏家によるジャズバンド「UNIT ASIA」の2009年夏の特別公演
28	全国日本語学校対抗「日本検定クイズ大会」	日本	日本検定クイズ大会実行委員会	2009.09.01 ~ 2009.09.02	外国人留学生の日本文化理解促進、国際交流の目的で、日本の文化や社会に関する知識をクイズ形式で競い合う催し。本年度は、日本全国の日本語教育機関36校で学ぶ72名の外国人学生が会場
29	高校生小論文コンテスト	日本	城西国際大学国際人文学部国際文化学科	2009.09.01 ~ 2009.10.31	これから大学教育を受ける若い世代に向けて、グローバル時代の日常生活と世界の現実との緊密な関係や、世界の中での日本文化に対する眼差し、国際的文化交流に関心が持てるよう、世界の中における日本をテーマにした小論文のコンテストを実施
30	横浜クリエイティブシティ国際会議2009	日本	横浜クリエイティブシティ国際会議2009実行委員会	2009.09.04 ~ 2009.09.06	クリエイティブシティの新たな方向性と戦略を検討するとともに、市民、NPO、大学、行政等多様な担い手によるネットワーク形成をはかることを目的に国際会議を開催。基調講演・パネルディスカッション（賢人会議・首長会議）・3つの分科会等による議論を通じ「横浜クリエイティブシティ国際会議2009横浜宣言」を行った
31	丹波の森国際音楽祭シューベルトァーデたんば2009	日本	丹波の森国際音楽祭シューベルトァーデたんば実行委員会	2009.09.05 ~ 2009.11.23	丹波地域からシューベルトの音楽を通じた地域交流・国際交流の一層の推進を図るため、音楽祭を開催

情報センター事業費

	事業名	実施国	申請者	期間	事業内容
32	谷口 道廣展	中国	谷口道廣	2009.09.07 ～ 2009.09.18	谷口道廣が国際交流基金北京日本文化センターで絵画の個展「和壺の視点」を開催。絵画を通じた自己表現、日本的表現、またオリエンタルな空間を提示し、日中間の友好親善を図った
33	ワンダーアイズプロジェクト×WWFジャパン/WWFインドネシア「スマトラの森」	インドネシア	財団法人WWFジャパン（世界自然保護基金ジャパン）	2009.09.07 ～ 2010.04.22	日本人がスマトラ島への理解を深めること、またスマトラ島の住民たちには、身の回りの自然や生活を見直すと同時に、世界に目を向けるきっかけを提供することが目的。日本の写真家の指導のもと、スマトラ島の小学生174名が身近な自然や暮らしを撮影。写真から絵葉書を作成、WWFジャパンのジュニア会員約70名に郵送し交流を図った。また同写真をパネルとし、「ワンダーアイズ・プロジェクト写真展『レンズの裏から見たスマトラ』」「スマトラの森 Forest Calling 写真展」としてジャカルタと日本国内で巡回展示
34	2009年日本留学フェア	韓国	社団法人東京都専修学校各種学校協会	2009.09.12 ～ 2009.09.13	申請者の国際交流事業の一環として、韓国（プサン、ソウル）において日本への留学・就学希望者を対象に日本の教育制度の説明や入学情報を提供し、国際交流、留学生・就学生交流に貢献。大学、大学院、専門学校及び日本語学校による学校説明会を実施
35	上映シンポジウム「日本フィンランド共同制作映像発表会」	日本	日本人のアイデンティティ文化発信実行委員会	2009.09.12 ～ 2009.09.14	日本の里山風景が残る兵庫県豊岡市竹野町の1年と、フィンランドの伝統的文化が残るハウホ村の1年を映像で追い、一本の共同制作映像詩「いつもの風景」を制作。日本・フィンランド修好90周年記念事業として、同作品を発表。フィンランドから映像チームを日本へ招き、シンポジウムを開催して両国の理解と交流を深めた
36	第15回カナガワビエンナーレ国際児童画展	日本	財団法人かながわ国際交流財団	2009.09.12 ～ 2010.03.26	第15回カナガワビエンナーレ国際児童画展への応募作品20,723点（85カ国・地域及び県内児童が参加）から選ばれた入賞作品520点を県内各地で巡回展示し、県民に世界の児童画の鑑賞を通じて国際理解と国際文化交流を体験する機会を提供
37	第2回日韓若手音楽家交流コンサート from Switzerland	日本	日韓若手音楽家交流委員会	2009.09.14 ～ 2009.09.20	スイスの音楽学校を卒業、もしくは勉強中の日本人、韓国人の若手音楽家が日本国内で4回のコンサートを行い、日本・韓国、両国間の親睦を深めた
38	平成21年度プログラム・オフィサー・セミナー	日本	独立行政法人科学技術振興機構	2009.09.16	日本ではTransformative Researchを如何に支援し、イノベーションを起こしていくかが議論されているが、Transformative Researchのようなハイリスク研究は従来のpeer reviewでは採択され難いとの指摘がある。米国における活動を紹介し、ハイリスク研究のファンディング・プログラムの設計とマネジメントについて議論した
39	北太平洋環境フォーラム	日本	社団法人北太平洋地域研究センター	2009.09.18	北太平洋地域研究センターの創立25周年を機に、環境問題と食料安全保障問題を取り上げ、それらの問題の諸要因及び解決策について討議する中で、北海道がいかに国際的役割を担っていくべきかを展望することを目的に、「環境問題と食糧安全保障—北海道の国際的役割」と題した公開フォーラムを開催

情報センター事業費

	事業名	実施国	申請者	期間	事業内容
40	SWISS WEEK - Switzerland meets Japan in Concert	日本	若手音楽家育成アヤマ基金	2009.09.19 ~ 2009.09.27	日本、スイスその他の若手音楽家が共演する機会を提供することにより、関係国の文化交流促進に寄与する
41	講演会「人形浄瑠璃文楽と世界無形文化遺産と」	日本	日月美術館	2009.09.20	平成15年ユネスコの世界無形文化遺産に登録された文楽が、世界からどのような価値観で見られているか、登録時に尽力した茂手木潔子（有明教育芸術短期大学教授）の講演と文楽鑑賞の解説、笹子追分人形保存会による公演を鑑賞
42	漆芸 煌めきの刻	米国	「漆芸 煌めきの刻」展示会 実行委員会	2009.09.22 ~ 2009.09.28	江戸時代から続く蒔絵の家系に生まれた三田村有純（漆芸作家／東京藝術大学教授）による、40年間の作品及び三田村家四代の作品等80点を一堂に展示。伝統に裏打ちされた日本工芸を海外の日本人が深く理解し、日本文化に誇りを持つと同時に、蒔絵に体现される日本人の美の感覚を世界へ発信することを目的とする
43	第13回長沢アートパーク 水彩多色摺り木版製作研修プログラム	日本	長沢アートパーク事業実行委員会	2009.09.29 ~ 2009.11.20	長沢アートパーク事業は、1997年に淡路市長沢地区の活性化事業として始まり、地域への文化芸術の普及、地元住民による民間外交・国際貢献を目指すアーティスト・イン・レジデンス事業。参加アーティストは、淡路市に約2カ月間滞在しながら水彩多色摺り木版画製作技術を学び、水彩版画の自主制作を行う。今回は、インドネシア、米国、アイルランド、イタリア、英国、ドイツから計6名が参加
44	第22回アジア太平洋子ども会議・イン福岡	日本	特定非営利活動法人アジア太平洋子ども会議・イン福岡	2009.10.01 ~ 2010.09.30	アジア太平洋諸国・地域の子供たちが交流体験を通してお互いの国や地域、文化について考える機会を提供し、相互理解を促進する。異文化体験を通じて、国際感覚あふれる青少年を育成する事業 【派遣事業】日本の子どもたちを、春休み期間中に、海外（タイ、プータン、ハワイ、オーストラリア、モルディブ）に派遣し、現地でのホームステイや学校訪問などを通じて生活文化を直に体験させた。 【招へい事業】アジア太平洋地域から「子ども大使」を招聘し、福岡でホームステイや交流キャンプを行うことで、海外の子供たちに日本に対する理解を深めてもらうと同時に、未来を担う子供たちにアジア太平洋の文化の多様性と異文化理解の大切さを実感させた
45	大地のジョイントパフォーマンス (Dances of the Earth)	日本	マザーポート・アート・フェスティバル実行委員会	2009.10.03 ~ 2009.10.05	北アメリカの先住民族とアイヌにルーツを持つアーティストがダンスで共演し、先住民族の伝統文化への理解を深めるとともに、両民族のアーティストが交流して新しい作品を創り上げていくプログラム。共同制作作品及び先住民族の文化・身体表現の方法などの理解を深めるため、レクチャーとアーティストによるポストトーク、身体表現ワークショップも実施した
46	第23回UBEビエンナーレ'09 現代日本彫刻展	日本	宇部市	2009.10.03 ~ 2009.11.15	山口県宇部市で昭和36年から行われている野外彫刻展。新人の登竜門として、全体で392名、海外からは41カ国156名から作品の応募があり、20点の彫刻を選出。受賞作品は、ビエンナーレ終了後も市街地に恒久設置される。関連企画として受賞作家と市民の交流会や彫刻ワークショップも実施し、彫刻を通して宇部市と世界との交流を図った

情報センター事業費

	事業名	実施国	申請者	期間	事業内容
47	第96回日本エスペラント大会	日本	財団法人日本エスペラント学会	2009.10.10 ～ 2009.10.12	一つの言葉による対等な国際（民族）交流を目指し、国際共通語エスペラントの実践者である日本のエスペランティストが年に一度集まり、過去、現在、未来の活動について討論し、交流・親睦を深める催し。また在住外国人を含む国内・外からの外国人の参加者も交え、国際交流、地域との交流に努めた
48	ベトナム国際ニヤチャンビーチ・ハーフマラソン2009	ベトナム	ベトナム国際ニヤチャンビーチハーフマラソン2009組織・実行委員会	2009.10.11	日越スポーツ交流を促進するため、ベトナムにおいてマラソン大会を開催。また、ベトナムにおけるスポーツ振興に裨益するため陸上競技指導等を同時に実施
49	Sing Out Asia ジャカルタ公演	インドネシア	特定非営利活動法人 Sing Out Asia	2009.10.11 ～ 2009.10.12	インドネシア・ジャカルタ市で行われる「ジャカルタ日本祭」に参加し、アジアの伝統音楽、ポップスでアジアの若者の団結、世界平和を訴えた。10月12日には、主としてインドネシアの大学生のために市内の劇場にて音楽公演を実施
50	第50回海外日系人大会	日本	財団法人海外日系人協会	2009.10.14 ～ 2009.10.16	海外在住日系人が母国で一堂に会し、居住国の実情を日本に知らせ、併せて国際交流、国際理解、国際親善を深め、世界の対日理解の促進と強化を図った
51	第16回陝西省大学生日本語弁論大会及び第6回日本語教育セミナー in 西安	中国	社団法人全国日本学士会	2009.10.17 ～ 2009.10.18	陝西省の各大学選抜学生による日本語弁論大会を開催（10月18日）。中道真木男（名古屋外国語大学日本語学科長／教授）、水田澄子（名古屋外国語大学日本語学科教授）、土岐哲（京都外国語大学日本語学科教授）日本人専門家3名が審査員を務めた。優勝者一行4名は、2010年5月11日～20日、日本に招へいされた。弁論大会前日には、中国陝西省における日本語教育水準の向上を目的に、日本語教育研究者・教師を対象とした日本語教育セミナーを開催（10月17日）。上記専門家によるセミナー・ワークショップを実施
52	第22回東京国際映画祭	日本	財団法人日本映像国際振興協会	2009.10.17 ～ 2009.10.25	日本と世界各国の映画上映を通じて国際文化交流と映像産業の振興を目的とする国際映画祭。上映企画としてコンペティション部門、アジアの風部門、日本映画・ある視点部門などを設けたほか、シンポジウム、セミナー等も開催
53	平成21年度日本語教育能力検定試験	日本	財団法人日本国際教育支援協会	2009.10.18	日本語教員になるために学習している者、日本語教員として教育に携わっている者等を対象に、その知識及び能力が日本語教育の専門家として必要とされる基礎的水準に達しているかどうかを検定する試験を実施
54	2009 東京・中国映画週間	日本	日中友好映画祭実行委員会	2009.10.18 ～ 2009.10.25	日中両国の相互理解と信頼を促進する目的で、第22回東京映画祭の連携企画として実施。中国映画の最新作、話題作を上映。併せて、セミナー、講演会等を開催
55	第11回語学留学生の祭典「進学・就職・国際フェア」	日本	日本語学校ネットワーク	2009.10.23	大学・専門学校の学校紹介ブース、企業ブース、各国の文化紹介ブース等を設営し、日本語学校や日本語学校卒業後の進路紹介と共に、国際交流及び日本理解の場を提供

情報センター事業費

	事業名	実施国	申請者	期間	事業内容
56	天上の散華III in 能楽堂	日本	カンボジア舞踊企画制作 SAKARAK	2009. 10. 24	カンボジア王国の宮廷舞踊として伝承されてきた、カンボジア古典舞踊の紹介。ユネスコ世界無形文化遺産でもあるカンボジア古典舞踊の正統な伝統を守るカンボジア芸術大学付属芸術学校を日本人として初めて卒業した山中ひとみ（カンボジア舞踊企画制作 SAKARAK代表）が、同大学教授を3名招へいし、カンボジア古典舞踊の公演を実施。また能とカンボジア古典舞踊の異同を比較検証し、相互理解を深める機会とした
57	郭 景澤監督の映画世界 —友情の年、隣邦より「チング (友)」が来た—	日本	九州大学韓国研究センター	2009. 10. 24	2009年は福岡市・釜山市行政交流都市締結20周年に当たり、福岡・釜山「友情年」でもある。韓国映画を通じて福岡市民の韓国文化に対する関心を引き出すと共に、日韓の「友情」とは何かを考えていくきっかけを作る。日本での韓流の先がけとなった、映画『友へ チング』の監督を招へいし、監督の映画観、「友情」に対する考えをインタビュー形式で聞き、韓国文化を知るとともに日韓の「友情」構築を目指した
58	第33回福澤杯争奪全日本学生 英語弁論大会	日本	慶應義塾大学英語會	2009. 10. 24	将来的な国際社会での活躍を視野に入れ、英語によるコミュニケーション能力の向上を目的に、大学生を対象とした全国規模の英語弁論大会。事前に考えてきたテーマで行う7分間のスピーチと、その場で与えられたテーマについて4分間で行うスピーチの2種類の結果により優勝者を決定
59	ワールド・コラボ・フェスタ 2009	日本	ワールド・コラボ・フェスタ実 行委員会	2009. 10. 24 ～ 2009. 10. 25	持続可能な地域社会の実現をめざし、国際交流・協力、多文化共生、環境などについて学び、考え、行動する場をつくることを目的に、愛知、岐阜、三重の東海3県を中心に活動する国際交流・協力団体が連携して、世界各国の歌や踊り、トークイベント等のステージや異文化理解・多文化共生、環境、平和、教育などの活動ブースを出展
60	親子で楽しむ国際理解教室 ～君 も今日から地球っ子！集まれ！ 世界のことばあそびの広場～	日本	特定非営利活動法人多言語広場 CELULAS	2009. 10. 25	幼児・小学生を対象に、在日外国人、留学生、研修生との交流を通じて世界観を広げ、多言語・多文化共生社会への認識を深めてもらう「国際理解教室」事業。在日外国人、留学生、研修生に自国の文化、風俗・習慣、言語等を紹介し、またクイズやゲーム等を通じて身近に交流を体験する場を作った
61	ポスター芸術における豊かな表 現の世界	日本	日本国際ポスター美術館	2009. 10. 25 ～ 2009. 12. 26	ローレック以降、大衆文化として存在意義を高めたポスター芸術を、113点の作品を用いて、従来とは異なった切り口による企画展示を行った
62	第16回大阪ヨーロッパ映画祭	日本	大阪ヨーロッパ映画祭実行委員 会	2009. 10. 31 ～ 2009. 12. 03	ヨーロッパ各国で注目を集めた近作映画のうち、日本未公開作品の上映と関係者の招へいや関連イベントを通して、日欧交流を図るフィルムフェスティバル。映像技術面や内容の充実した選りすぐりのヨーロッパ映画の上映を通じて「ヨーロッパの現在」を紹介。鋭い切り口で現代社会に共通する問題を取り扱った作品を選ぶことにより、観客と映画関係者との議論の活性化をはかることにも力点を置いている。 また映画祭が招いたヨーロッパの監督、俳優など映画関係者と観客との交流イベントには、日本全国から参加があった

情報センター事業費

	事業名	実施国	申請者	期間	事業内容
63	POSCO・新日鉄プレゼンツ 日韓伝統音楽交流	日本	新日鐵文化財団	2009. 11. 11	日韓を代表する伝統音楽の演奏家が集い、伝統的な曲から伝統楽器を使用した現代曲まで幅広い楽曲を披露する。日韓を代表する鉄鋼会社である新日鉄と韓国・POSCOが音楽メセナ活動の交流を通じて両国文化の発展に寄与することを目的とする企画の一環。2008年4月より開始し今回で4回目の公演（ソウルで既に2回実施し、東京では2回目）
64	中国北方昆劇団（北方昆曲劇院）東京特別記念公演	日本	株式会社メディア新日中	2009. 11. 11 ～ 2009. 11. 12	日中平和友好条約締結31周年、東京都と北京市の友好姉妹都市締結30周年に当たる2009年に、日中両国と両都市の民間交流を更に促進すること及びユネスコの無形文化遺産である「昆劇」の認知を広めることを目的として、北方昆曲劇院による公演を実施。演目は「水滸伝」「西遊記」「三国志」から選び、中国一級クラスの役者が来日、公演
65	第8回全養協フォーラム「日本語教師に求められる資質・能力」	日本	一般社団法人全国日本語教師養成協議会	2009. 11. 14	国内外の日本語教育現場で学習者が多様化する中、日本語教師に求められる資質・能力も多様化している。今回のフォーラムでは、教育現場の違いや関わり方によって、求められる資質・能力が異なる。一方普遍的に必要な資質・能力があるとすれば、それがどのようなものかを探った
66	「障害者週間」東欧音楽家支援 日本・ブルガリア国交再開50周年記念・国際親善交流特別演奏会（日本・ブルガリア・ルーマニア文化交流演奏会）	日本	日本音楽文化交流協会	2009. 11. 17 ～ 2009. 12. 09	国際親善交流と、相互の文化の発展向上を目的に、東欧諸国の著名な演奏家を日本に招へいし、コンサートを開催。同コンサートに、身体障害者、支援するボランティア団体、母子家庭・養護施設の子供たち、高齢者など、演奏会を楽しむ機会の少ない人々を招待し、健常者と共に一流の音楽を堪能する機会を提供することを通じて文化の振興を図る“社会貢献”事業
67	国際学術講演会「現代社会における価値観と信念」	日本	青山学院大学総合文化政策学部	2009. 11. 19	Wolfgang Jagodzinski（ドイツ・ケルン大学教授）を招へいし、国際比較調査データに基づく実証的な知見を踏まえて「世界における価値観の変化」の方向について透徹した議論を展開
68	第23回国際交流祭 in 西安	中国	株式会社NHK文化センター	2009. 11. 19 ～ 2009. 11. 21	相互理解と友好親善を目的に、日本文化を紹介する展示・実演や音楽、舞踏等の公演を行い、民間による草の根の国際交流を行う。今回は、全国各地のNHK文化センターで開講している書道・水墨画等の中国関係講座の講師・受講生と西安の専門家、市民との交流会を行い、文化交流、友好の促進を図った
69	野田 秀樹芸術監督就任記念プログラム バンコク・シアター・ネットワーク×東京芸術劇場共同制作『赤鬼』、『農業少女』	日本	東京芸術劇場（財団法人東京都歴史文化財団）	2009. 11. 19 ～ 2009. 11. 23	伝統芸能との葛藤というアジア演劇特有の課題を抱えていたタイの現代演劇界において、1997年の日本との共同制作『赤鬼』（作・演出／野田秀樹）が現代演劇を発展させるきっかけとなった。タイの演劇人たちが、野田秀樹東京芸術劇場芸術監督就任記念プログラムのひとつとして、『赤鬼』『農業少女』の2作品を連続上演し、新しいタイの演劇を披露

情報センター事業費

	事業名	実施国	申請者	期間	事業内容
70	第35回全国語学教育学会 年次国際大会	日本	特定非営利活動法人全国語学教育学会	2009. 11. 20 ~ 2009. 11. 23	「教育と学習の対話：多様な鏡像」を大会の基本テーマに、世界的に著名な5名の語学教育専門家による基調講演を行ったほか、500を越える講演、研究発表、パネルディスカッションを行い、第二言語・外国語としての言語教育の理論と実践を様々な角度から考え、日本における言語教育の向上に貢献することを目指した
71	第34回ジャパンウィーク2009年 オーストリア・グラーツ	オーストリア	財団法人国際親善協会	2009. 11. 21 ~ 2009. 11. 26	市民レベル、地域レベルでの文化・スポーツをはじめとする多岐にわたる交流を通じて、日本とオーストリアとの友好親善、相互理解を促進し、さらに両国の地域社会作りへの貢献を目指した交流事業。日本の伝統的な古典芸能や絵画・書道の展示、スポーツ交流等を実施
72	第12回京都国際学生映画祭	日本	財団法人大学コンソーシアム京都	2009. 11. 21 ~ 2009. 11. 28	京都国際学生映画祭は、京都周辺の学生が主体となって行う日本最大の国際学生映画祭。国内外の学生映画を募集・審査し、入選作品を上映。本年は廣原暁監督の『世界グッドモーニング!!』が準グランプリを獲得。またグランプリを受賞したLee Sang Woo 監督(韓国)を含むスペイン、ドイツ、オーストリアから入賞作品の監督、計4名を招へいして国際的な交流の場を設けた
73	第4回中国語スピーチコンテスト	日本	特定非営利活動法人立命館孔子学院	2009. 12. 05	中国語教育の促進、中国文化の理解促進及び奨学生派遣のための選考を目的に、中国語スピーチコンテストを開催。これにより中国語学習者の持続的な努力を奨励し、中国語運用能力の一層の向上を期待。参加者は、広く日本全国の中国語教育を行っている高等学校や大学、一般からも募集し、それぞれの部門で最優秀者、優秀者を表彰
74	ノンフィクション文学賞 第11回蓮如賞 第2部記念行事	日本	財団法人本願寺維持財団	2009. 12. 10	日本文化の原点にして頂点である「京都文化」。その基底と背景にある精神性を、宗教、文学、思想、哲学、芸術などの面から多角的に論じる講演会、シンポジウムを実施。また、混迷の世界情勢に求められる「京都文化」、日本文化の精神を、人類共通の叡智にすべく、京都から世界に向けてメッセージを発信することにより、日本文化の発展、更なる国際交流に資する。関西地域在住外国人研究者・学生などが参加
75	パパ・タラフマラ新作公演『パ ンク・ドンキホーテ』	日本	パパ・タラフマラ	2009. 12. 11 ~ 2009. 12. 20	セルバンテス「ドンキホーテ」からインスパイアされた作品を用いて、オーウェン・ウェンリヤン(中国)、クトゥット・リナ(インドネシア)、アラン・パットン(米国)など海外の優れたアーティスト(俳優や音楽家)を交え、外国文化的要素を混交させつつ、ノスタルジックで、時代の最先端の作品創造を目指した
76	文化遺産国際協力コンソーシアム シンポジウム「観光は文化遺産を救えるか：国際協力の新たな展開」	日本	文化遺産国際協力コンソーシアム	2009. 12. 13	過去に日本が行ってきた文化遺産保護における取り組みについて、一般市民向けの国際シンポジウムを開催し、日本の文化遺産国際協力の内容、その効果等について情報を発信、国民の理解促進を図った

情報センター事業費

	事業名	実施国	申請者	期間	事業内容
77	Horacio Castellanos Moya 著作『崩壊 (Desmoronamiento)』日本語版出版記念発表会	日本	セルバンテス文化センター東京	2009.12.16	Horacio Castellanos Moya (エルサルバドル：平成21年度国際交流基金日本研究フェロー) の著作 <i>Desmoronamiento</i> (スペイン語) の邦訳出版を記念して発表会を開催
78	第3回世界アーティストサミット	日本	京都造形芸術大学	2009.12.19 ~ 2009.12.20	関西経済、産業、文化の発展に寄与することを目的に、人口問題、環境破壊、貧困などの世界の様々な困難な状況に対し、アーティストのもつ想像・創造力から発想された解決策を関西から発信するサミットを開催。海外からピケット・克蘭チュン (タイ：舞踏家)、ナリン・チャミンダ・ミーマナージ (スリランカ：映画監督)、ハーヴェイ・ブータース (オランダ：ファッションデザイナー) ほかを招へい
79	ティエリ・グルンステン来日シンポジウム	日本	明治大学国際日本学部	2009.12.23	ヨーロッパを代表するコミック研究者であるティエリ・グルンステン (マンガ理論家/評論家) が来日する機会を捉え、特別シンポジウム「ヴィジュアル・カルチャーと漫画の文法—ティエリ・グルンステンを迎えて—」を開催
80	第31回国際学生シンポジウム	日本	第31回国際学生シンポジウム運営委員会	2009.12.25 ~ 2009.12.27	世界で起こる諸問題に対して主体的に行動し、問題解決の原動力となる人材を育成するため、問題解決の契機となる議論の場を提供する。約200名の留学生・学生が分科会に分かれ、3日間にわたってディスカッションを行い、最終日に報告会を行う。参加者が交流することで新たなネットワークを形成することを目的とするディスカッションイベント
81	Yoshinari Nishio Workshop, Nairobi 《Overall Project》	ケニア	西尾 美也	2010.01.06 ~ 2010.01.27	西尾美也 (現代美術家) が、「装いの行為とコミュニケーション」をテーマに、ナイロビ (ケニア) で地域住民と共に滞り型製作ワークショップ。2週間のプロジェクト期間の後、市内の美術施設でドキュメント展示を実施。展示期間中にはシンポジウムやアーティスト・トーク等を行い、公共空間での住民協働型アートプロジェクトという双方向の芸術の社会的実践について議論
82	ユネスコ世界無形遺産「能楽」700年の歴史を楽しむ国際交流の集い	日本	財団法人観世文庫	2010.01.16	「能楽」を通じて国際交流をはかり、外国人の日本文化に対する理解促進と、諸外国との文化交流のきっかけ作りを目指す。在日外国公館の大使・公使夫妻及び文化担当官等を招き、観世清和 (二十六世観世宗家) による能楽のワークショップと講演を実施
83	APAアワード2009 国際展・シカゴ展	米国	社団法人日本広告写真家協会 (APA)	2010.01.19 ~ 2010.02.04	日本広告写真家協会の「APAアワード2009」入選作品63点を、シカゴ (米国) で展示し、日本の広告写真を米国市民及び関係機関、団体、メディアに紹介
84	日中学生フォーラム「阪神・淡路大震災と四川大地震からの教訓—国際社会の防災をリードする若者たち—」	日本	「阪神・淡路大震災と四川大地震からの教訓」実行委員会	2010.01.24	防災・減災に取り組む日中の学生が、過去に被災した地域が得た「震災経験」を、次の災害に備える知恵として活かし、他地域と次世代に「つなぐ」ために果たすべき役割を考えるため、シンポジウム及び分科会を行い、共同声明を採択。併せて2009年10月に四川を訪問した日本の学生 (神戸学院大学・舞子高等学校) による現地写真、被災直後と現在の神戸の町を比較した写真のパネル展示会を開催

情報センター事業費

	事業名	実施国	申請者	期間	事業内容
85	第6回日本語学校合同スピーチ大会	日本	第6回日本語学校合同スピーチ大会実行委員会	2010.02.10	東京都内の日本語学校7校が共同で実施する日本語スピーチ大会。各校で日本語を学ぶ外国人就学生が主体の実行委員会が企画運営を行う。本年度は、各校の代表13名が参加して、日頃の学習の成果を競った
86	日本・メキシコ交流400周年記念公演「菊の会日本のおどり 伝統と創造」	メキシコ	舞踊集団菊の会	2010.02.19 ~ 2010.02.20	数多くの舞踊・音楽が伝承されているメキシコと、長唄、狂言舞踊を中心とした日本の伝統舞踊の公演を通じて、両国の交流の推進を図った
87	第25回北方圏国際シンポジウム「オホーツク海と流氷」	日本	北方圏国際シンポジウム実行委員会	2010.02.21 ~ 2010.02.26	「オホーツク海と流氷」をテーマに、流氷と氷海に関わりを持つ研究技術情報の交換や海洋環境の保全を目的とした専門家の研究発表会。加えて市民向け公開講座「オホーツク～ふるさとの海」も開催
88	「中央アジア+日本」対話 第4回東京対話	日本	外務省	2010.02.25	「中央アジア地域における今後の物流インフラ整備」をテーマに、日本と中央アジア諸国の有識者を中心に議論を行い、日本と中央アジアの知的交流の幅を広げるとともに政府間対話への提言をまとめた
89	第6回エコプロダクツ国際展	インドネシア	国際機関APO（アジア生産性機構）	2010.03.04 ~ 2010.03.07	日本及びアジアにおける循環型社会の形成を目指し、アジア域内の企業、NGO、一般市民の参加による展示会及び国際会議を開催。アジア各国企業の製品・サービスの循環配慮型への転換と消費者の意識改革を通じたエコプロダクツ普及を図った
90	EARTH VISION 第18回地球環境映像祭	日本	アース・ビジョン組織委員会事務局	2010.03.05 ~ 2010.03.07	アジア・オセアニア（ポリネシア諸島を含む）地域の優れた映像作品を上映することにより「地球環境」について考え、また同地域の社会や文化的背景に触れる場を設ける。更に監督を招へいし観客との質疑応答や交流の場を設けることで、より深く多角的な情報発信を行った
91	マリオン・ブリッジ	日本	マシュマロ・ウェーブ	2010.03.17 ~ 2010.03.22	2008年にカナダのシミノビッチ賞（演劇）を受賞した、ダニエル・マキバーの代表作を翻訳初演。2005年にニューヨーク、オフ・ブロードウェイでも上映されている。稽古に英語のオリジナル台本を持ち込むことで英語が第一言語であり、さらに日本語に流暢な出演者ならではの個性的な舞台を目指す。更に公演最終日には英語でもリーディング上演を行い、国際都市・東京にふさわしい「現代演劇」を提供
92	第6回クールシュヴェール国際音楽アカデミー in かさま	日本	クールシュヴェール国際音楽アカデミー in かさま実行委員会	2010.03.21 ~ 2010.03.30	国際的に活躍する音楽家を育成することを目的に、フランス、クールシュヴェールで行われている音楽アカデミーのカリキュラムに従って行うヴァイオリンとピアノのマスタークラス。アカデミーのレッスン公開、講師参加の市民コンサートや住民参加の街角コンサートなどの関連イベントもを行い、「音楽文化にふれて感じる」機会を創出

情報センター事業費

	事業名	実施国	申請者	期間	事業内容
93	第19回日中友好の声日本語中国語弁論大会、第5回日中友好の声全中国日本語弁論グランドチャンピオン大会	中国	日中友好の声日本語中国語弁論大会実行委員会	2010. 03. 27 ~ 2010. 3. 28	日中両国の若者たちがお互いの国の言葉を理解することで日中友好を促進することを目的に、大学生による日本語・中国語の弁論大会を実施。中国での観光ブームを受けて、「行きたい地域、行きたい国」をテーマに、日本語・中国語弁論大会（北京・天津首都圏大会：3月27日）及び全中国日本語弁論大会（3月28日）を開催
94	クラムボンの会(林 洋子ひとり語り一宮沢 賢治)30周年記念連続公演のうちの3公演	日本	クラムボンの会	2010. 03. 28 ~ 2010. 11. 23	タゴールの夕べ（弦楽四重奏と朗読による「ギタンジャリ」2公演、2010. 03. 28、2010. 11. 23）及びアラブ現代詩朗読会（「オリーブの知らせ」「スーフィー在東京」2010. 7. 25の1公演）
95	「周恩来と日本、そして京都」写真展	日本	特定非営利活動法人立命館孔子学院	2010. 03. 31 ~ 2010. 04. 04	日中友好の架け橋となった周恩来・中国初代首相の日本留学時代・青年期から生涯に渡る多くの日本人との会見写真など、日本、そして京都の関わりを中心とした貴重な写真約110点を4つのテーマ別に展示し年表と共に振り返る写真展を開催

調査研究及び情報提供事業等に必要経費

企画・評価費

1. 調査研究費

- (1) 調査研究
- (2) 事業評価（企画評価）

企画・評価費

1. 調査研究費 / (1) 調査研究

国際交流の促進に資する各種調査研究を行ない、その成果を広く内外に公開する。

合計額 5,448,382 円

	事業名	対象国	期間	事業内容
1	主要国の国際文化交流機関との連携	ドイツ	2009.04.01 ~ 2010.03.31	ケルン日本文化会館により、定期的な訪問・面談等をおこない、ゲーテ・インスティテュート本部と情報交換を実施
2	国別評価手法開発研究	全世界区分困難	2009.04.01 ~ 2009.09.30	ドイツで実施した質問紙調査・インタビュー調査を複数の分析手法を用いて解析を試みることで、文化交流事業における社会調査、分析手法の有効性や、質的データの数量的分析の可能性を検討
3	文化交流研究委員会	全世界区分困難	2009.09.01 ~ 2010.03.31	グローバル化の進行等により「文化交流」の持つ意味が変化しているとの認識に立ち、社会構造や価値感の変化を国際的な視点で研究している外部有識者に、①「文化交流」の普遍的意味と今日において重視すべき意義、②日本が行うべき文化交流の、主として2点について提言を求める研究委員会を実施し報告書を作成
4	理事長と有識者との対談	全世界区分困難	2010.01.01 ~ 2010.03.31	日本における文化交流のあり方について、理事長が聞き手となり、考え方や立場が異なる多彩な有識者との対談を実施

1. 調査研究費 / (2) 事業評価（企画評価）

年度業績評価や、基金事業の評価を実施する。

合計額 1,373,000 円

	事業名	期間	事業内容
1	専門評価	2009.04.01 ~ 2009.09.30	平成20年度業務実績報告書の客観性と信頼性を高め、改善点などを把握するため、事業プログラムごとに外部専門家による評価を実施
2	評価に関する有識者委員会	2009.04.01 ~ 2010.03.31	国際交流基金の業務について、各年度終了後に行う自己評価の妥当性、評価方針、方法ならびに評価結果を踏まえた基金の業務の改善について、有識者に諮るための委員会を開催

調査研究及び情報提供事業等に必要経費

文化事情調査費

1. 調査研究費

(1) 文化事情調査

文化事情調査費

1. 調査研究費 / (1) 文化事情調査

国際交流基金の総合的企画立案機能強化の一環として、相手国別に文化事情を調査し、また、同国と日本との文化交流において基金が果たすべき役割等につき、方針を策定する。

合計額 2,794,664 円

	事業名	対象国	期間	事業内容
1	平成22年度中国向け事業方針策定のための有識者懇談会	中国	2009.09.30	平成22年度中国向け事業方針を策定するにあたり、中国事情に詳しい有識者からの専門的意見の徴取、ヒアリングを実施
2	中長期的イタリア向け事業戦略検討のための有識者懇談会	イタリア	2010.02.23 ~ 2010.02.26	中長期的なイタリア向け事業戦略を検討するにあたり、イタリア事情に詳しい有識者からの専門的意見の徴取、ヒアリングを実施
3	平成22年度ロシア向け事業方針策定のための有識者懇談会	ロシア	2009.10.07	平成22年度ロシア向け事業方針を策定するにあたり、ロシア事情に詳しい有識者からの専門的意見の徴取、ヒアリングを実施

調査研究及び情報提供事業等に必要経費

国際文化交流研究センター事業費

1. 調査研究費

- (1) 機関連携事業
- (2) 調査研究

国際文化交流研究センター事業費

1. 調査研究費 / (1) 機関連携事業

大学等の機関と連携して行う国際文化交流講座等の事業。

合計額 465,250 円

	事業名	共催機関	期間	事業内容
1	大学連携国際文化交流講座	上智大学	2009.10.06 ~ 2010.01.05	上智大学と連携して、同大学の秋期公開講座の一つとして、新規に国際文化交流講座「国際文化交流の理論と実践—研究と実践の現場から—」を開講（全12講義）。国際文化交流の最前線での事例を理論的に解説し、受講者と討論する場を設けたほか、国際文化交流を通じた平和構築や多文化共生への貢献といった日本が果たすべき役割について、実体験を踏まえて紹介

国際文化交流研究センター事業費

1. 調査研究費 / (2) 調査研究

「平和のための文化イニシアティブ」、「地域活性化と国際交流」、「各国文化機関の比較研究」等のテーマによる研究プロジェクト、紀要の発行、諸外国の広報・文化外交に関する情報収集等を行う。

合計額 16,645,363 円

	事業名	期間	事業内容
1	国際交流共同研究センター事業	2009.04.01 ~ 2010.03.31	青山学院大学と連携・協力して運営する「国際交流共同研究センター」において、「平和のための文化イニシアティブ」、「地域活性化と国際交流」及び「国際文化交流機関の比較研究」をテーマにシンポジウム、ランチタイム・セミナー等を開催したほか、東ティモールにおける事例調査を実施。また、同センターの研究紀要 <i>Peace and Culture</i> 第2巻第1号を発行
2	国際文化交流政策情報収集	2009.04.01 ~ 2010.03.31	国内外の国際交流の動向を的確に把握し、これに基づいて我が国を巡る国際環境の変化に機動的に対応することを目的として、諸外国の広報・文化外交に関する報告書、文化関係機関の年報、政府や文化関係者による記者発表等を翻訳・情報収集。また、韓国在住の有識者に委託し、韓国のパブリック・ディプロマシーに関する報告書を作成